

平成30年度 岩手県立一関清明支援学校 第2回学校評議委員会記録

1 開会のことば

2 校長挨拶

県からは本校の校舎の使い方として本校舎と山目校舎を活用するよう指示が出ている。山目校舎には病肢の中学部を置くことにした。本校舎には教室のゆとりができる。3年かけて山目校舎に教室を整備する。年度末反省を行った。学校教育目標を受けて学部、校務部で反省を行いおむね順調であった。保護者への学校評価アンケートをみても職員同様の数値であった。開校11年目。29年度から学校運営のテーマを「学び」「つながり」「ひろがり」とした。養護学校、聾学校の伝統をもとに歩み始め、信頼と尊重を土台にしながら学びを深め、また学びが卒業後にも生かされるよう多様な学びを展開していきたい。各学部の様子、学校評価についてご意見をいただき来年度に活かしていきたい。

3 評議員及び職員紹介 欠席 佐藤伸哉 赤荻小学校校長

4 協議・報告

(1) 平成30年度教育活動について

- ① 各学部、分教室の様子 各校舎、学部毎の特色学習活動をパワーポイントで紹介。
- ② 進路指導について 高等部3年生 27名の進路 ○障害雇用枠一般就労7名 ○北上シチズン ○A型2名 ○就労移行1名 ○B型9名 ○生活介護3名 ○専門学校1名 ○自宅就労1名(農業) ○未定3名
- ③ 外部支援について ○来校・電話相談175件プラス50件 ○連携会議32回 ○エリアコーディネーター140回 ★一関市就学にかかわる検査、保護者へのカンファレンス★乳幼児教室や就学相談にかかわる学校相談

(2) 平成30年度学校評価について

質疑 千田さんQ 千厩の他県とのweb交流。映像でのやり取りは年何回か。

A 年3回実施

学校評価について

相澤さん○いい場所に学校ができた。萩荘、山目と分かれていたがここ(赤荻)には小学校、幼稚園がありいい環境である。

金野さん Q 教職員の6番 危機管理体制の危機管理とは何か？

A 様々な緊急対応のマニュアルがある。子供の命を守るために機能しているか1年を通じて取り組んでいる。想定外はないようにしている。

Q 教職員の個別の指導計画と教育支援計画とは？

A 学校で作成しているものは大きく2つである。支援計画は保護者と本人の希望、願いが込められている。指導計画は学習の計画をもとに指導し通知表になる。高等部は移行支援計画を作成。卒業後につながるものである。事業所でも個別の支援計画がある。

佐々木さん ⇒高等部の評価で交流が低い数値である。高等部は実習がメインになる。高等部の子供たちにはわかりにくいので、理解できるような交流をしてほしい。先生が努力を認めて

くれないという評価は言葉で分かる子、すぐに忘れてしまう子がいる。D組は連絡帳があるからわかる。C組は自分で書いている。ほめられたことを書いてもらうと家庭での話題になりフィードバックにもなる。そうすればもう少し数値が上がるのではないか。

5 学校評議員からのご提言

金野さん⇒○校舎、授業の参観で丁寧にひとりひとりのことを考え、工夫をもって授業をされているなど感じた。指一本一本の体操では伸ばす、機器を使って押すとしゃべる（教材）。それぞれの障がいに応じた授業を感じ、それが評価にも出ている。自由記述に大切なことがたくさん詰まっている。前年度比で表しているが対象者も人数も違う。前年度比ではないと思う。保護者に出したときにマイナスよりも自由記述のほうがイメージが付きやすい。

千田さん⇒○平成30年度の教育活動 交流及び共同学習について～説明スライドから「地域」という言葉が多く聞かれてよかった。校長の本校をとり巻く環境の変化、今の日本の障がい児教育はインクルーシブ教育、交流及び共同学習をいかに充実していくかだと思う。よくやっている。願うことは、今後地域に戻っての居住地交流の充実である。推進するには教員の引率が必要。教員がどれだけ対応できるかマンパワーの問題、充実が必要。校長会、教育委員会、文科省へ働きかけてほしい。○学校評価～新学習指導要領への対応・関係機関との連携についての質問が、マイナス0.7ポイントである。改定のポイント、社会に開かれた教育課程について、もう少し地域を巻き込んだ編成の充実が必要。一関清明がPDCAサイクルでカリキュラムマネジメントをどう行っていくのか、今後推進してほしい。

相澤さん⇒○地域との交流をすれば学習の時間が減る。卒業後の心のよりどころは学校か地域に帰属するのか？プライバシーの問題もあるがサポートしてほしい。

佐々木さん⇒○山目校舎の改修後、子供たちが安心安全に学ぶ環境を整えてほしい。

6 校長お礼のことば

本日は貴重なご意見ありがとうございました。11年目の清明は一つ一つの教育活動、行事の吟味をしてきた。目標、狙いが適切なのか、じっくり丁寧に1年間みてきた。方向性について教職員一同確認できた。本校には様々な障がいの子がいる。千厩分教室にはこれまで知的の子を受け入れてきた。病弱の子、医ケアが必要な子は山目校舎まできてもらっていた。これを何とかしたい。病弱の子を受け入れられるよう県と市に相談してきた。千厩小（ハピきら）で受け入れがなんとかできるように準備を進めている。看護師の配置は難しいが保護者が対応することで教育課程設置を進めていき、多様な教育の場、教育を提供していく。在宅の子（訪問教育該当）にも教員が出向くよう準備を進めている。地域の中で育つ理想を達成できるようチーム清明で取り組んでいく。